

取組の概要

対象畜種

鶏（採卵鶏）

協議会構成員

畜産農家（株式会社地主共和商會、有限会社せせらぎ）、
耕種農家、野島飼料株式会社、松阪市、松阪農業協同組
合、三重県（松阪農林商工環境事務所、中央農業改良普
及センター、農畜産室）

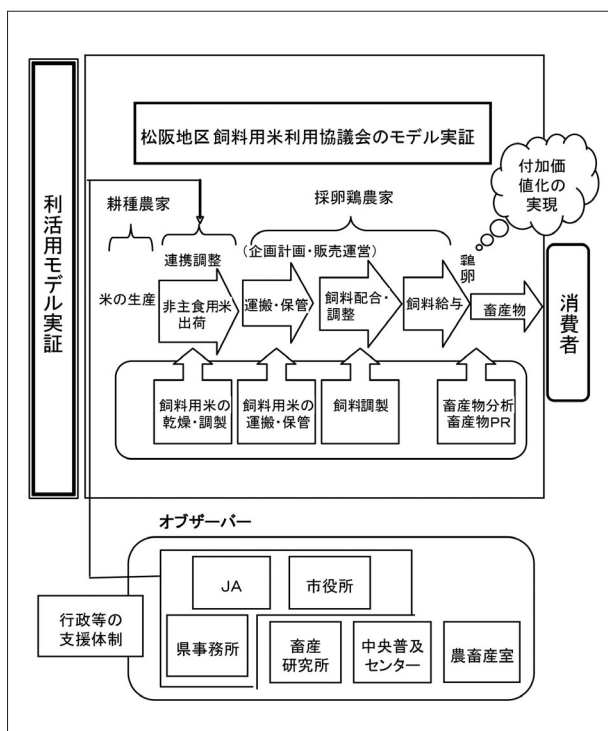
飼料用米生産面積

17.8ha

供試品種

みえのゆめ 17.8ha

取組体制



取組内容

①飼料用米の流通、保管、調製に係る実証調査

【実施方法】

- ◆調製＝耕種農家が収穫籾を乾燥し、水分15%以下の籾に調製後、フレコンバックに袋詰めした。
- ◆保管＝野島飼料株式会社及び県内倉庫で、配合飼料に混合調製するまでの間、フレコンバックに袋詰めした状態のままで保管した。
- ◆流通＝フレコンバックに袋詰めした籾米は、JA松阪東部カントリーエレベーターを中継して、保管場所へ運搬した。

【結果】

- ◆当初計画よりも収穫時期が遅れ、籾米の出荷開始が遅くなった。
- ◆耕種農家においてフレコンバックに番号を記入し、JA松阪東部カントリーエレベーターで籾米の重量及び水分のチェックの際に一つずつ照合した。
- ◆JA松阪東部CEから保管場所2カ所への運搬は運送業者が行ったが、当初の計画にない変更（雨による出荷中止、休日出荷）が生じたため、急遽、JA松阪で一時的保管場所を確保する等して、対応した。

②飼料用米の給与による家畜・畜産物への影響調査

【実施方法】

- ◆有限会社せせらぎの鶏舎において、ケージ飼いの2列（採卵鶏300羽）へ籾米を配合飼料の56%混合して給与した。
- ◆籾米給与区と既存飼料給与区の鶏卵に対する影響を比較検討した。

【結果】

- ◆籾米給与の採卵鶏は、相当にカラーファンが下がることを予想してコーングルテンミールを2%入れた配合設計にしたところ、玄米での試験時よりもかなりカラーファンが上がる結果となり、コーングルテンミールを減らすようにした。
- ◆籾米を給与した鶏の卵（飼料米たまご）を別に集荷し、株式会社地主共和商會において「おこめ美人」に商品化した。

③飼料用米を利用した畜産物の普及活動

【実施方法】

- ◆松阪地区飼料用米利用協議会のリーフレットを作成し、協議会が飼料米を用いた鶏卵の生産普及に努めていることとともに、飼料米たまご（商品名「おこめ美人」）をPRした。
- ◆卵パックにもラベルを封入した。

【結果】

- ◆リーフレットとラベルを印刷・配布し、併せて店頭等で消費者へのPRに努めた。
- ◆飼料米たまごの販売状況は、直売所での販売とともに新規の販売ルートも探り、開拓しつつある。

取組によってわかったこと

1. 調製・保管・流通について

- 飼料用米の収穫時期（9月中下旬）が天候不順な時期と重なるため、現在の飼料用米の栽培体系の検討が必要。
- フレコンバックごとに重量が異なるため、運搬及び保管の業者に対する重量報告が大変難儀であった。重量の統一が可能ならば省力化を図ることができるが、その場合、耕種農家における作業負担がかなり大きくなる。
- 保管場所が遠く、運搬に複数の業者が介在したため、連絡方法に課題が残った。

2. 家畜・畜産物への影響について

- 粳米給与で当初、カラーファンに予想外の結果が出たが、飼料の配合設計の変更により解消した。

3. 普及活動について

- 飼料米たまごに付加価値をつけて販売しようと思った場合、その趣旨の理解と価格の問題が大きいため、どうしても時間がかかる。
- 今後もPRの努力を継続していく。

4. 今後の飼料用米の取組予定

- 引き続き、非主食用米を前年並みに作付けし、収穫した粳米を採卵鶏へ給与する。
- 高付加価値・特殊卵の生産を続けるが、配合飼料割合や給与方法については卵の販売状況を勘案して決定する。
- 関係機関で消費者へのPR等について協議し、取組を支援していく。

三重県農水商工部農畜産室 鷲野 高明

参考データ・写真等



平成20年度の実証
左：コシヒカリ、右：みえのゆめ（飼料用米）（平成20年8月21日撮影）



飼料用米の給与（鶏舎内）



実施状況検討会（平成20年10月30日撮影）